

「学校関係者評価報告書」の公表について

本校では、以前より教育や業務の改善を図るために、自己点検・評価に取り組んでおります。平成25年度から、卒業生を含め本校に関係の深い企業関連の方々を中心に「学校関係者評価委員会」を設置し、ご意見等をお聞きして、教育活動や学校運営に反映させてまいりました。

本年度は、学校関係者評価委員会を平成30年5月23日に開催しました。その結果を、保護者や地域社会の皆様方に対し、説明責任を果たし、理解と協力を得るために「学校関係者評価委員会報告書」としてここに公表いたします。

学校関係者評価委員会では、本校が行った自己点検評価や学校運営上の重点項目に対して、多くのご意見やご助言をいただきました。本校では、これらのご指導項目を真摯に受け止め、より良い教育、学校運営を実現するために、教職員一同努力して組織的・継続的な改善を続けて参ります。

学校に対するご支援や条件整備等の充実に対して、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成30年6月
学校法人京都中央学院
Y I C 京都ペット総合専門学校
校長 杉山 征人

学校関係者評価委員会報告

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえ、本校に関係の深い企業等の評価委員に、Y I C 京都ペット総合専門学校「平成28年度自己点検・評価報告書」の「次年度改善計画（重点項目）」を中心に、評価していただいた。

評価委員からの意見は、校長以下、本校で組織する評価委員会が承り、その内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

「平成28年度自己点検・評価報告書」と併せてご覧いただきたい。

学校関係者評価委員会 委員 (敬称略)

| 委員名 | 所属等 | 選出区分 |
|--------|----------------------------------|------|
| 若松 久雄 | 公益社団法人京都府獣医師会 副会長 | 業界団体 |
| *新谷 嘉成 | 一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 会長 | 業界団体 |
| 中村 達朗 | 株式会社ペットコム 代表取締役社長 | 業界企業 |
| 丸山 帆夏 | ダクタリ動物病院 京都医療センター | 卒業生 |

注) * は委員長

任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日

学校事務局（評価委員会）

| | | |
|-------|---------------------------------|-----|
| 杉山 征人 | Y I C 京都ペット総合専門学校 校長 | 事務局 |
| 細田 元一 | Y I C 京都ペット総合専門学校 副校長 | 事務局 |
| 内田 幸治 | Y I C 京都ペット総合専門学校 管理部長 | 事務局 |
| 山根 大助 | Y I C 京都ペット総合専門学校 アメーバ経営推進室長 | 事務局 |

平成 30 年度 第 1 回学校関係者評価委員会 議事録

場 所：YIC 京都ペット総合専門学校 1 号館 3 階 131 教室

日 時：平成 29 年 5 月 23 日（水） 13:30～15:30

参加委員：社団法人京都府獣医師会：若松様、

一般社団法人ジャパンケネルクラブ：新谷様

株式会社ペットコム：中村様

ダクタリ動物病院 京都医療センター（卒業生）：丸山様

事務局：杉山校長、細田副校長、内田管理部長、山根アメーバ経営推進室長

欠 席：五郎畑学科長

オブザーバー：飛田キャリアサポート室長

議 事 録：山根

1. 校長あいさつ
2. 教職員紹介
3. 関係者評価委員紹介
4. 定員数確認、委員長の選出（副校長）
 - ・ 全出席で本委員会は成立する。
 - ・ 委員長に新谷委員を推薦、全員の賛同により承認された。
5. 配布資料等確認
6. 平成 29 年度の自己点検評価結果について（副校長）

「平成 29 年度 YIC 京都ペット総合専門学校 自己点検・評価結果」に基づき、以下の項目の説明があった。

 - ① 1. 教育理念・目標
 - ② 2. 学校運営
 - ③ 7. 学生の受入れ募集
 - ④ 8. 教育の内部保証システム
 - ⑤ 9. 財務
 - ⑥ 10. 社会貢献・地域貢献
 - ⑦ 11. 国際交流

7. 平成 30 年度の取り組みへの意見等

| 大項目名 | 項目番号 | ご意見（委員） | 回答（事務局） |
|----------------|------|--|--|
| 1. 教育理念・目標 | 1-2 | 業界全体の給与水準は低く、離職率が高い。女性比率が高い。有効求人倍率はバブル期を超えている。業界として待遇改善が必要。離職した人に戻ってきてもらう体制が必要。会社の中に小さな託児所等、女性が働きやすい環境づくりが必要である。 | 職場復帰のハードルを低くするために社会人の学び直しを考えられるが需要とのバランスが課題である。 |
| 1. 教育理念・目標 | 1-4 | 学校で教える内容にブリーディングは取り入れないのか。そのような希望を出す企業もある。 | 業界がそういう人を要請しているのであれば、学校もそちらに力を入れる必要もある。 |
| 1. 教育理念・目標 | 1-5 | 技術・心ともに確りしていると言われる学校となる事が重要である。輩出した学生が就職先で如何に評価されているのかが重要。評価されていけば長く社会に貢献できる。 | - |
| 8. 教育の内部保証システム | 8-8 | 教員育成のスタイルで教員募集をかけている学校もある。YIC としてはどのようなスタイルなのか。 | 技術を持ち教育理念を理解したうえで導く事ができる教員を求めている。学校でその様な人財を育てる方針である。 |

8. 今後の予定（副校長）

年 1 回の実施のため、平成 30 年度の委員会はこれで終了。

※委員会開催必要がある場合はお声掛けする。